

光嚴寺(前橋市)

光嚴寺七重石塔/室町時代中期/前橋市指定文化財



元々は総社町高井の東覚寺跡にあったといわれる



標柱では「東覚寺層塔」となっている



市指定重要文化財 東覚寺層塔

- 1. 指定年月日 昭和48年9月24日
- 1. 所在地 前橋市総社町総社1607 光巖寺
- 1. 所有者 光巖寺

概要 安山岩製。高さ417cm。相輪七層の屋蓋。塔身二重基台から成る。上下基台の上端には反花座が彫られ、塔身および上部基台の各四面は縦割りに3区に分けられている。基台正面には中央に格狭間状に切った孔と香炉が彫られ、その左右両区に花瓶が配されている。一方、両側面には各々3体ずつ六観音像が平坂状に彫られている。塔身の正面は中央に四角い孔をあけ、その左右両区に大きく「南無阿弥陀仏」と彫っている。反花座を含めたこれらの彫刻の技法は室町時代の特徴を良く表わしている。

この塔は総社町高井の東覚寺跡にあったものと伝えられる。





後の農民がこの秋元氏の治政に感謝し、安永五年(1776年)に造立した「力田(りよくでん)遺愛碑」という碑

